

世界経済評論 2021年7・8月号
(通巻715号)

特集「グローバル化の評価と行方
：進・資本主義への鼓動」

発売 2021年6月15日

世界経済評論 2021年5・6月号
(通巻714号)

特集「経済安全保障の罫
：問われる国・企業の国際力」

発売 2021年4月15日

【申し込み先】

(株) 文眞堂

〒162-0041

東京都新宿区早稲田鶴巻町 533 番地

TEL : 03-3202-8480

<http://www.bunshin-do.co.jp/>

定価 1,320 円 (消費税込み、送料別)

年間購読料 6,600 円 (消費税込み、
送料共)

世界経済を読み解く国際戦略の羅針盤
世界経済評論 7・8月号
2021 Vol.65 No.4
World Economic Review



世界経済を読み解く国際戦略の羅針盤
世界経済評論 5・6月号
2021 Vol.65 No.3
World Economic Review



活 動 報 告

1. 役員会

第28回通常理事会を书面決議により行いました。

一令和3年度事業計画、予算が承認されました。

第29回通常理事会、第16回定時評議員会および第30回臨時理事会を6月に书面決議により行う予定です。

理事・監事懇談会を6月7日、評議員懇談会を6月24日にオンライン形式により開催を予定しています。

2. 本年度調査事業・調査研究活動

2-1 補助事業

公益財団法人JKAからの助成金を受けて、次の調査研究を実施します。

(1) WTO改革の原点と焦点調査研究補助事業

(2) 世界貿易におけるポスト中国としてのメコン地域経済発展の可能性調査研究補助事業

(3) USMCAや米中対立が生産ネットワークの再編に与える影響調査研究補助事業

2-2 助成事業

【一般財団法人貿易・産業協力振興財団助成事業の採択】

ITICから下記の事業について助成を受け、調査研究と情報収集、基本的なデータ整備を進めています。

(1) RCEPが日本企業のアジア太平洋での活動に与える影響調査事業

5月より関税削減効果の具体的な効果検証作業を開始しています。

(2) 中国：中国デジタル・トランスフォーメーション戦略と多国間協力の可能性に関する研究事業

(3) ニューノーマル・アフリカとの協働ビジネス構築の調査研究事業

2-3 研究会の開催

前記補助事業、助成事業の実施に関わる研究会並びに独自の自主研究会として下記を開催します。

(1) 日本を取り巻く国際貿易・投資に関する調査研究

TPP（環太平洋経済連携協定）などのFTAをはじめとする、日本を取り巻く国際貿易・投資の最新動向に関して調査

研究を行うために、「国際貿易投資研究会」を開催します。研究会ではメンバー他による報告をもとに議論を行います。国際貿易投資研究会（座長：馬田啓一 ITI理事、ITI客員研究員、杏林大学名誉教授）

(2) 中国研究会（座長：梶田幸雄 ITI客員研究員、中央大学法学部教授）

進んでいる中国のDXおよびAI研究の現状を分析し、我が国のDX対応に対する参考とします。

- ・第1回（5月13日、オンライン研究会）
「今年度研究テーマ等に関する打ち合わせ」

(3) 日本産業連関動学モデル（JIDEA）の運用（座長：今川健 中央大学名誉教授）

当研究所が有する「日本産業連関動学モデル（JIDEA）」について、データの基準年変更に伴い新データベースの設計構築を検討します。

(4) 欧州研究会（座長：長部重康 ITI客員研究員、法政大学名誉教授）

本年度は、EU復興基金等を使ったEUおよび各国のコロナ禍からの回復ぶりに注視していきます。また、英国がEUを離脱し、米国ではバイデン新政権が誕生したことにより、対外経済関係にも変化が予想され、EUの対英、対米経済関係も注目されます。さらに米中に後れを取ってしまった産業競争力、特に情報通信

産業、自動車産業などに焦点を当てながら、情報収集を行います。

(5) 貿易直接投資研究会（座長：増田耕太郎 ITI客員研究員）

世界の貿易直接投資等に係わる諸課題を取り上げて専門家を招いて勉強会を開催します。

(6) ニューノーマル・アフリカとの協働ビジネス構築の調査研究会（座長：平野克己 ジェトロ・アジア経済研究所上席主任調査研究員）

本年度は、とりわけデジタル・トランスフォーメーション（DX）が進展しつつあるアフリカ諸国のダイナミズムを、アフリカビジネス協議会と連携をとりながら、それらに関心を高めつつある企業に情報提供することで、わが国企業の対アフリカビジネスへの関心を高めるパイロット役を果たすことを目的として活動を行います。

- ・第1回（5月24日、オンライン研究会）
「今年度の研究会の進め方、プロジェクトの概要について」

(7) 資源エネルギー研究会（座長：武石礼司 ITI客員研究員、東京国際大学国際関係学部教授）

資源エネルギー問題、特に化石燃料（石油・天然ガス・石炭）の使用が今後どのように進むのか、技術進歩との関係、地球環境問題との関係、湾岸産油国等の資源供給国の政治・経済情勢の動

向、世界最大の生産国でもある米国等のエネルギー政策等を考慮しつつ検討します。

- ・第1回（5月28日、オンライン研究会）
「自動車をめぐる動きと自動車産業の展望」 亀井淳史（技術経営コンサルタント、元株式会社テクノバ代表取締役）

(8) 世界貿易におけるポスト中国としてのメコン地域経済発展の可能性調査研究会（座長：高橋与志 ITI客員研究員、広島大学大学院人間社会科学研究科准教授）

メコン地域（タイ、ベトナム、ミャンマー、カンボジア、ラオス）が、中国の生産力を代替するような強固な生産体制を構築するには、何をすべきか、日本企業及びASEANの関係当局に対して政策提言します。

(9) WTO改革の原点と焦点調査研究会（座長：中川淳司 ITI客員研究員、中央学院大学現代教養学部教授、アンダーソン・毛利・友常法律事務所弁護士）

機能不全に陥っていたWTOは、3月にオコンジョイウェアラ新事務局長が就任し、現在の機能不全の改革に取り組むと期待されます。当研究会ではWTOの根本にかかわる大所高所からの議論と提言をとりまとめます。

- ・第1回（5月31日、オンライン研究会）

(10) ASEAN研究会（座長：石川幸一 ITI客員研究員、亜細亜大学アジア研究所特別研究員）

新型コロナウイルス感染症の拡大や米中の2大国の貿易摩擦、発達が進むデジタル経済など、ASEANを取り巻く国際環境は大きな変化を迎えています。本年度の研究会では急速に変化するASEAN経済の今後の課題について、調査分析を行います。

- ・第1回（5月24日、オンライン研究会）
「今年度の研究プロジェクトの概要」 吉岡武臣（ITI主任研究員）
「AEC2025ブループリントの中間評価」 石川幸一（ITI客員研究員、亜細亜大学アジア研究所特別研究員）

(11) 米国研究会（座長：瀧井光夫 ITI客員研究員、桜美林大学名誉教授）

新NAFTA（USMCA）の原産地規則の強化により、メキシコから関税無しで米国に自動車やその部品を輸出することは困難となりました。企業は北米での部材の現地調達を増やすだけではなく、メキシコでの生産を維持するか、あるいは米国へ生産を移管するかどうかを決断しなければならなくなっています。本調査は、日本企業に対して北米などでの生産ネットワークの再編に資する情報を抵抗することを目的とします。

3. 調査研究報告書など（成果の普及活動）

3-1 調査研究報告書の発行

2021年3月以降に発行した調査研究報告書（ITI調査研究シリーズ）は次のとおりです。

- ・ No.114 トランプ政権の通商産業政策が製造業の競争力に与える影響（JKA、2021年3月）
- ・ No.115 WTO改革の進展と収斂（JKA、2021年3月）
- ・ No.116 米中経済戦争・一帯一路とASEAN（JKA、2021年3月）
- ・ No.117 コロナ禍と米中対立下のASEAN—貿易、サプライチェーン、経済統合の動向—（JKA、2021年3月）
- ・ No.118 コロナ禍のEU—連帯と結束を求めて（欧州経済研究会編、2021年4月）

3-2 会員対象の勉強会

会員を対象にした「勉強会」を開催しています。研究所の研究プロジェクトの一環として行う研究会を兼ねた場合もあります。勉強会のご案内は、会員の方にe-mailで差し上げています。

- ・ 第1回（5月28日、オンライン勉強会）
「自動車をめぐる動きと自動車産業の展望」亀井淳史（技術経営コンサルタント、元株式会社テクノバ代表取締役）

3-3 世界Econo.Bizセレクト

ITI発行の諸メディア掲載論稿及び調査研究活動とその成果を改めて動画で広く対外発表することを目的として、2020年12月からYouTube上に「世界Econo.Bizセレクト」チャンネルを開設しています。

- ・ No.12（3月15日）
世界経済評論2021年3・4月号。著者を囲む読者座談会。
- ・ No.13（4月1日）
世界経済評論3・4月号「米国はなぜグローバル競争力を高めているのか」（高橋俊樹）
- ・ No.14（4月14日）
インパクト「イスラーム金融とESG—コロナ禍を受け「社会」要素を中心に進展が加速—」（金子寿太郎）
- ・ No.15（4月14日）
世界経済評論2021年5・6月号。特集「経済安全保障の罫：問われる国・企業の国際力」の紹介（湯澤三郎）
- ・ No.16（5月12日）
世界経済評論2021年5・6月号。著者を囲む読者座談会。

4. 世界経済評論

4-1 『世界経済評論』

「世界経済評論」（隔月刊発行）を発刊しました。

- ・ 714号（2021年5・6月）2021年4月15日発売
「経済安全保障の罫：問われる国・企業の国際力」

- ・715号（2021年7・8月）2021年6月15日発売予定

「グローバル化の評価と行方：進・資本主義への鼓動」

<http://www.world-economic-review.jp/>
「世界経済評論」誌のご購読および広告等の照会先は次のとおりです。

（株）文眞堂

TEL：03-3202-8480

e-mail：eigyoun@bunshin-do.co.jp

- ・若手研究者の論文募集（査読付論文の掲載）

世界経済評論では、新進気鋭の研究者等による論文を募集しています。採用する論文は、査読者による査読付として公表する予定です。

4-2 世界経済評論編集企画委員会

4月27日に第14回世界経済評論編集企画委員会をオンライン形式（Zoom）により開催しました。2021年10月刊以降の特集テーマについて検討しました。

4-3 世界経済評論IMPACT

ウェブ・マガジン「世界経済評論IMPACT」は、延べ160名余の有識者による国際経済コラムを掲載しています。毎週月曜日に5～10名の有識者が交代でコラムを執筆します。ぜひご覧ください。

2020年度のコラム数は424本（前年度356本の19.1%増）、アクセス数は505,691件（前年度296,670件の70.4

%増）でした。

なお、4月のコラム数は36本（前年同月比10.0%減）、アクセス数は30,263件（同39.6%減）。

<http://www.world-economic-review.jp/impact/>

コラム付随した論文を掲載する『世界経済評論IMPACT+（Plus）』のサイトを開設しました。2020年度の掲載数は4件でした。

http://www.world-economic-review.jp/impact/impact_plus.html

4-4 世界経済評論オンライン読者座談会

世界経済評論に御寄稿された著者を囲んで、所載論文等を巡って意見交換や感想を語り合うオンライン読者座談会を開催しました。

- ・4月28日

世界経済評論2021年5・6月号「経済安全保障の罫：問われる国・企業の国際力」

参加著者：松下満雄（東京大学名誉教授・元WTO上級委員）、須田祐子（東京外国語大学非常勤講師）、鈴木一人（東京大学公共政策大学院教授）、立花聡（エリス・コンサルティング代表）、岸本芳也（シュグルー・マイアン外国法事務弁護士事務所代表パートナー）

5. ホームページ

5-1 コラム欄

- ・No.85「バイデン政権で日本のサプライチェーンはどう変わるか～大きな可能性を秘める「インド太平洋構想+欧州+拡大TPP11」～」高橋俊樹（4月15日）

5-2 フラッシュ欄

- ・No.480「イタリアでドラギ新政権が発足」新井俊三（3月12日）
- ・No.481「中国：マスク・ワクチン外交と一帯一路」今村弘子（3月16日）
- ・No.482「中国のカウンターパワーとしてのインド～インドのいないRCEPと中国～」大木博巳（3月17日）
- ・No.483「転換期を迎える米・台・中のIT産業の国際分業～21世紀の原油、半導体を巡る地政学的リスクの高まり～」大木博巳（4月20日）

5-3 国際比較統計

ホームページの国際比較統計は、国際

比較可能な形式のフォームで①「直接投資」、②「貿易」、③「サービス貿易」、④「マクロ経済統計」の4分野について掲載し、多くの方のリサーチ・インフラとして活用されています。

最新の年次データに更新しました。

6. 所外活動など

6-1 寄稿等

2021年4月以降の寄稿等（雑誌・新聞等コメントを含む）は次のとおりです。

- ・国際経済はどこに向かうのか（2021年全国会議報告）（政策研究フォーラム改革者2021年5月号）高橋俊樹

6-2 取材等

2021年4月以降の取材等は次のとおりです。

- ・5月13日 日本経済新聞「故畠山理事長の業績回顧」湯澤三郎

（事務局：小野充人、寺川光士、井殿みどり、宮本由紀子）